

流域にいる魚たちを大切にしよう



モクスガニ (サワガニ科) 体長約40cm
親ガニは河口近くで産卵。ふ化した幼生はさらに下流に流れ、海で育ち、稚ガニになると、中流域まで川を上りながら成長する。菊池川流域では、「山太郎」とも呼ばれる。



有明海

コイ (コイ科) 体長約60cm
時には1m以上の大物も。雑食性で、特に底面の泥の中の生物を好んで食べる。



ニッポンバラタナゴ (コイ科) 体長約5cm
暗い緑色のたて帯がある、美しい魚。繁殖期になると、オスは赤みを帯びた体色になる。ピンタ、シピンタとも呼ばれる。



アユ (アユ科) 体長約18~30cm
川魚の女王。水のきれいな川にしか棲まず、成長すると、岩につくケイソウ類を食べるため、風味、香りがよく、香魚ともいわれる。



ギンブナ (フナ科) 体長約25cm
コイに似た魚だが、ヒゲがないのが特徴。冬は水底に静止し、春になって活動を始める。



オヤニラミ (スズキ科) 体長約13cm
スズキ科で唯一淡水にすむ魚。赤い目から、黒いすじが出ていて、体に青い斑点がある。条件によっては、絶滅の危惧が考えられる貴重な魚。



ヤマメ (サケ科) 体長約20cm
川の上流、水温20℃以下のところにすむ。体にパールマークと呼ばれる楕円形の模様があり、背びれと尾びれの間にはアブラビレがあるのが特長。大変すばしっこく、用心深い。



オイカワ (コイ科) 体長約15cm
ハエ、シラハエなどと呼ばれ、ハエ釣りでおなじみの魚。体に赤みを帯びた模様がある。浅く開けた場所の平瀬から淵、砂底などにいる。



カマツカ (コイ科) 体長約25cm
川の砂底にすみ、よく砂中にもぐる。水底の昆虫類を主食とする。

菊池川水系

- 菊池川 — 71,200m
- 〈主に支流〉
- 岩野川 — 24,400m
- 合志川 — 21,950m
- 迫間川 — 21,500m
- 上内田川 — 14,200m

天然記念物・チスジノリ

形が人間の血管に似ているところから名前がついた。全国的にも大変珍しい淡水藻類の一種で、菊池川の菊水町下津原菰田橋から上流に棲息。ただ、山鹿市の山鹿大橋から上流の分田橋一帯は、「菊池川のチスジノリ発生地」として、国の天然記念物に指定され、この区域での捕獲は禁止されている。


